

## 会 議 録

会議の名称		令和元年度第4回川越市障害者施策審議会
開催日時		令和2年2月18日(火) 午後1時30分～3時00分
開催場所		川越市総合福祉センター 3階社会適応訓練室
議長(会長)氏名		会長 佐藤 陽
出席者(委員)氏名(人数)		佐藤会長、藤田副会長、望月委員、島村委員、森田委員、小林委員、大野一美委員、大畠委員、樽角委員、山田委員、岸澤委員、大平委員、内藤委員、鈴木委員、山下委員、高橋委員(16名)
欠席者(委員)氏名(人数)		松本委員、大西委員、大野操委員、速水委員(4名)
事務局職員氏名		福祉部長、障害者福祉課長、障害者福祉課副課長、牛窪副主幹、佐藤主査、清水主任、関根主事補
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 議題 (1) 川越市障害者支援計画に伴うアンケート調査結果について</li> <li>3 その他</li> <li>4 閉会</li> </ol>	
配布資料		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 会議次第</li> <li>2 資料1-1 障害福祉計画及び障害児福祉計画にかかる基本方針の見直し</li> <li>3 資料1-2 川越市障害者福祉に関するアンケート調査報告書《概要版》</li> <li>4 資料1-3 川越市障害者福祉に関するアンケート調査報告書自由記述編</li> <li>5 資料2-1 川越市次期障害者支援計画策定スケジュール(案)</li> <li>6 資料2-2 次期障害者支援計画の計画期間(案)と他計画の進行について</li> <li>7 障害者福祉に関するアンケート調査報告書に係る御意見等について【意見書】</li> </ol>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	<p>【開会】</p> <p>【資料確認】</p>
会 長	<p>【会長あいさつ】</p> <p>【会議公開の承認】</p>
事 務 局	<p>議題（１）川越市障害者支援計画に伴うアンケート調査結果について</p> <p>【資料１－１、１－２、１－３に基づいて事務局説明】</p>
会 長	<p>お気づきの点やご質問・ご意見ございますか。</p>
委 員	<p>自由記述のところ、身体障害者にかかることですが。９ページの上から９行目。「静岡は浜松に行くとき、電車賃が半額になると思ったら、介護人がいないと受けられない」みたいなことが書いてあるんですけど、これは本人に確認しましたか。多分、書いた方は川越の方だから、川越を経由して静岡まで行ったのではないと思うんですね。だから、普通、二人乗りでの半額だと思うんで、これは書いた方が何か勘違いしている気がします。もし本人が勘違いしているならば、できれば訊いていただいて、丁寧に教えた方がいいのではないのでしょうか。</p> <p>「障害があるように見えないので、自分から気遣いをしている」「バス・電車で優先席になるべく座らないようにしている」といった意見は、私もよくわかります。私もなるべく使わないようにしているところがありますので。障害者の一部は、やはりこういう感じ方をしている、ということをもうちよっと知っていただけないか、と思いました。</p> <p>挙がってきた意見の確認をして、回答するというところまで、できればして欲しいなと思います。時間もかかるし、手間もかかるとは思いますが、対応いただければ、もう少し障害者の方の環境が変わってくるんじゃないかなと思うんですね。</p>
委 員	<p>報告書２５ページの「悩みや困ったときの相談先」のところ、やはり「家族等」が多いとか、「医療機関」「施設の職員」だとか、各障害のところであったんですけど。「どこに、なにを、相談したらよいかわからない」が上位を占めているんです。結構、川越市は基幹型相談支援があ</p>

<p>事務局</p>	<p>り、委託相談もあり、計画相談が生まれてきた。ここ2～3年の話ですね。今後、川越駅西口にワンストップ相談窓口ができていくところですが、「どこに相談していいかわからない」という数字が比較的高いのは、どのように考えられますか。</p> <p>委員のご意見については、ご指摘のように自由記述の中にも、こちらの周知ですとか、制度の中身の不足があるというようなご意見も多々みられました。ただ、意見に一つずつ回答することは、回答が匿名であるため困難ですが、工夫といたしますか、周知・啓発をもう少し丁寧にする事で、障害のある方にとってわかりやすくなったり、利便性の向上につながったりすると思いますので、この結果を生かしていければと考えております。</p> <p>本当に多様なご意見が寄せられましたので、これらを整理しながら、施策提言に向かっていければと思います。</p> <p>制度に関する質問ですとか、多く寄せられたものにつきましましてはまとめて、周知・啓発をしていくなど検討したいと思っております。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員の相談に関するご意見ですが、ご指摘のとおり、「どこに、何を、相談したらいいかわからない」という傾向がわかりました。現在も連雀町において障害者相談支援センターを開き、そちらで障害のある方について相談を行っています。来年度から川越駅西口に、障害だけではなくて、高齢や生活困窮等を含めまして、総合相談窓口として体制を作っていきますので、そちらの周知をしっかりやって行きたいと思っております。様々な場面を利用して周知を行って行きたいところです。</p>
<p>会長</p>	<p>他、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケート調査報告書の最初の「1. 調査目的」と、「6. 調査項目」の表現についてなんですけれども。</p> <p>「1. 調査目的」ですが、「市民意識調査」とあるんですけれども、これは「市民アンケート調査」という表現の方が、読む人にとって理解しやすいかなと思いました。</p> <p>次に「6. 調査項目」なんですけれども、Aだけ「について」というのがついておりません。B以下Nまでは「について」という表現がついていますが、この際、AからNまで「について」という表現をとった方がよろしいのではないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>他にこうした表記に関するご意見は御座いますか。事務局はいかがでしょう。</p>

事務局	<p>「1. 調査目的」については、委員のご意見を参考にしまして、再度整理したいと考えます。</p> <p>また、「6. 調査項目」ですが、「について」が入っていることによって見づらくなっているところもありますので、これをとる形で考えていきたいと思います。</p>
会長	<p>他にご意見・ご質問御座いますでしょうか。</p>
委員	<p>アンケート調査結果についてご説明いただきましたが、全体的に、障害者の生活実態、障害者のニーズが赤裸々に表現されていて、非常に参考になりました。ふと気がついたんですけども、障害者計画の行政から出てきた年度の達成度評価と、アンケート結果との関係を見ますと、あまりにもかけ離れた点がたくさん出てきます。</p> <p>一つ例を挙げますと、外出時に非常に困難を感じている障害の方が、身体障害だけではなくて色々な障害の方がこれだけいらっしゃる。それが、行政から出てきた評価は、道路環境整備について言いますと、「随分できた」という評価が出てきている訳です。私たちが非常に気にしているのはそういう点で、行政と市民との間のギャップについて、どういう風に認識していらっしゃるのか。これをお聞きしたい。</p> <p>非常に赤裸々なアンケート調査です。これを計画の中に活かして、実施計画まで反映させるために、どのような展望をお持ちでしょうか。少し先走りの質問で申し訳ないのですが。</p> <p>非常に大きな課題の2点をお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>まず1点目のアンケートの結果と、進捗状況評価の結果についてギャップがあるという点ですが、例として外出時の困難等が挙げられましたが、各施策について来年度の計画策定に向けて、評価の仕方を工夫していく必要があると考えております。</p> <p>計画にアンケート調査を活かしていくことにつきましては、概要版でわかりやすく結果をまとめまして、そこから読み取れること、考えられること、課題、市がどのような施策を重点的に取り組めばいいのかといったことに活かしていきたいと考えております。</p>
事務局	<p>補足となります。アンケート調査の概要版ですが、市役所内関係各課に提供させていただきます。年度が変わりますと、今年度の評価をしてもらうわけですが、その際にこのアンケート結果に基づいて評価をしてもらうように考えております。</p>
委員	<p>やはり、この審議会だけにとどまらず、貴重な川越市内</p>

	<p>の実態のまとめですので、行政の各関係課にお配りして、是非活かして欲しい。私はずっと願っております。</p>
<p>会 長</p>	<p>各種市民サービスはどこのセクションでもありますので、障害者福祉課が一つの中核窓口になって、見落としがちな障害のある方たちへの配慮は、こういった自由記述の報告ですとか、報告書のフィードバックをしていただきながら、次の計画や、実際のサービスの向上につながるようにご努力いただくよう、よろしく願いいたします。</p>
<p>委 員</p>	<p>委員から意見があった乗車券についてです。その方が障害者手帳を出されたかわかりませんが、たまに私も電車を乗り継いで行きましたら、川越で乗車券を買った時に、駅員さんが間違えました。途中の駅の駅員さんが「これは間違いです」とお金を返してもらいましたが、たまにあると思います。報告書に意見を寄せた方も、ご自分が「200キロを超えると半額になる」という情報を入れてないと損だと思います。</p> <p>それから相談窓口ですが、あちこちにいくら作っていただき、広報などにも載せましたと仰ってくださるけれども、視力障害者の場合はそれを見てない場合があります。</p> <p>市は一生懸命相談窓口を作っているとは思いますが、中々、視力障害者はそれをみる事ができません。それを総会など、みんなが集まる場で言ってもらえると伝わると思うので、そういうこともお願いしたいと思います。</p>
<p>会 長</p>	<p>それぞれに必要な配慮が違うように、視覚障害の方は、情報の入り方が制限されてしまっていますので、そういった点を含めて、事務局は認識等について確認をして、周知を検討していただければと思います。</p> <p>「障害のしおり」があると思いますが、あのような媒体に載せるなど、何らかの形で周知をしていただけるようご検討お願いいたします。</p>
<p>委 員</p>	<p>誰かに読んでもらわないといけないことなどがあるので、しおりがあっても、持っているだけのような形になってしまうんです。口で仰ってくださったら一番理解しやすいのですが。</p>
<p>会 長</p>	<p>市社会福祉協議会には音読のボランティア団体もごございます。そういう会に入られている方はそこで確認ができますが、会に所属はしていない方には、いくつかの方法で情報の周知方法が必要ということですね。</p> <p>他にご意見よろしいでしょうか。</p>
<p>委 員</p>	<p>報告書概要版の22ページに、将来の生活で不安なこと</p>

で、「家族が病気になること」と「家族がいなくなること」という数値が各障害の中で高くなっていることが気になりました。身体は低かったと思いますが、精神、知的、難病については、相談はとても生まれてきていますが、家族に依拠している部分というか、ここがすごく不安なんだよというのが見えてきました。ここが低くなってくるとよいと思います。精神障害は国の指針で包括的な支援として充実することが謳われている中で、この数値は低くなっていくものでしょうか。知的障害の人たちは、入所施設やグループホームの整備が進んで欲しいという意見が多く、親がいなくなる不安感はなくなっていくのか、そういったところで、どう施策を考えていくのかなと思います。また、精神障害の方は相談的要素とか、急に何かあったときにどうするかとか、資源的な問題があるのかと感じました。

また、33ページで、災害時に一人で避難できるという人たちが、割と障害種別でも違いました。等級によっては軽い人が多いと思いますが、難病の方は一人でできる割合が高かったと思います。多分、これは台風19号の前に聞いたものだと思いますが。台風後でこれだったら安心する数値なのかどうかと思いましたが、後だったら、もう少し数値が低くなったのかなと思うところと、グループホームでは、「職員さんがいたら避難できる」というのも特徴的だと思いました。

今回、障害者の入所施設が被害に遭い、防災危機管理室も含めながら、障害について理解する場や、福祉避難所はどういう位置づけなのかといったことなど、考えることが多かったです。これは災害前の数値ということではよろしいですか。

事務局

9月に発送しまして、10月21日までを締め切りにしました。期限直前に出された方の中には台風19号のことを書いていただいたと思います。

委員

計画、審議会の中では、今回の台風のことにも教訓にしながら、話し合えたらいいなと感じております。

会長

生活の不安の部分で。知的障害だと「親亡き後」ということが一番大きな課題となって出てきますし、住まいと経済的な面や、生活を支えるという様々な側面で不安なのかもしれませんし、確かにこれだと内実は見えては来ないところですから、そういった不安をどうとらえて、制度設計をしていくのか。

災害の関係は年々規模が大きくなっている今日ですので、昨年同様のことが起きないとも限らないですから、福祉避難といった体制の整備も含めて、これは国の方でもそういった方向性でいるかと思いますが、他の担当課とも

<p>事務局 会長</p>	<p>協働の確認をしながら、理解を促進、推進していただくことが必要になると思います。</p> <p>他の委員の方からはよろしいでしょうか。</p> <p>先ほど事務局からもありましたが、アンケートをご確認いただいて、ご意見がありましたら、26日までにご指摘ください。</p> <p>【資料2-1及び2-2に基づいて、次の計画の策定スケジュール・手順について説明】</p> <p>全体の見通しを確認いただくということで、次年度のスケジュールを示していただきました。</p> <p>皆様方からのこれまでの意見も受けながら、プロジェクトチームを庁内で作っていただいて、施策を実効性のあるものにしていくことを踏まえながら検討していただき、幹事会や審議会でもきちんと検証し、今回で言えばこのアンケート調査結果と自由記述、今日の意見、今月末までの意見をフィードバックしながら、障害福祉を進めていき計画を立てていくという本市の流れと、全体の国・県の動きと整合性をとっていきます。</p> <p>今、国は地域共生社会の実現ということで、子ども、障害、生活困窮の方、あらゆる人たちが支え、支えられ、ということでもあります。自由記述にもありましたが、障害のある方たちができることがよりしやすくなるように、持っている力を活かせるように、支え、支えられる社会をつくっていくというところの骨子が打ち出されています。地域福祉計画や、介護保険事業計画の「包括的な支援をする」と打ち出してきていますので、その中で障害、子ども、生活困窮の関係も含めて、全市的に取り組んでいく。計画を実効性のあるものにしていくということで、他の計画についても期間的なものの整理をしながら進めていく。</p> <p>その一環として、6月には総合相談の窓口もスタートするというので、全体的な福祉の向上を本市でも図っているところなんです。特に、今回のアンケート報告書にもみえるように、ここでは障害関係者との意見交換は活発にできませんが、一般の方の障害の理解というところには中々うまくつながっていかないものですから、地域福祉計画、子ども、介護と、これまでの縦割りではなくて、横断的な計画作りとなっておりますので、この中では、障害分野の関係の皆様からご意見を出していただき、次期計画の策定に来年度から入っていきたいと思います。</p> <p>今日の皆様のご意見を活かしていただきながら、皆様ご自身のご協力もいただきながら、進めていければと思っております。よろしく願いいたします。</p> <p>3 その他</p>
-------------------	---

事務局	【川越市手話言語条例成立後の手話ハンドブックの活用状況について報告】 【県が作成したところのバリアフリーハンドブックについて説明】
会長	ほかにご質問・ご意見なければ、議事は終了と言うことで、進行を事務局に返したいと思います。
事務局	以上をもちまして、令和元年度第4回川越市障害者施策審議会を閉会します。  (午後3時00分閉会)